

2022年9月8日

報道関係各位

株式会社OKB総研

## 「OKB景況指数」2022年9月期調査報告

OKBグループのシンクタンク(株)OKB総研(大垣市郭町2-25 社長 青木 義美)は、3ヵ月ごとに「OKB景況指数」を公表しております。このたび、2022年9月期調査報告を取りまとめいたしましたのでご案内します。

### 調査結果要旨

<b>景気の水準</b>	景気全般は3期ぶりに上昇。 生産活動や設備投資は持ち直した。一方で、回復基調にあった個人消費が相次ぐ値上げや新型コロナ第7波の影響を受け、足踏み状態に。原材料高や円安の影響により、企業収益も引き続き落ち込んでいる。 県別では、岐阜県は上昇となった一方、愛知県はやや低下。両県の景気動向に差がみられた。
<b>景気の方角</b>	3ヵ月後の景気は悪化を見込む。原材料高や円安によるコスト増が企業収益を圧迫。個人消費は物価上昇による節約志向の強まりから弱含む見通し。
<b>新型コロナの影響</b>	新型コロナによる地域経済への影響は、「ややある」が59.7%と最も多かった。 前回調査(2022年6月期)から新型コロナの影響度は上昇。県別では愛知県で上昇、岐阜県ではほぼ横ばいとなった。

### OKB景況指数 とは・・・

<b>OKB大垣共立銀行の支店長を対象に3ヵ月ごとに調査を実施</b>
東海3県にある <b>OKB大垣共立銀行の支店長を調査対象</b> としている点が大きな特徴。銀行の支店長は、地域の企業活動や個人の景況感を総合的に捉えている。幅広い視点から地域の景況感を把握するには、銀行支店長への調査は有効な方法となる。
<b>県域より狭い地域の景気の水準と方向を集計</b>
「名古屋」、「西尾張」、「西濃」など、 <b>県域より狭い地域の景気水準を表す指標</b> を公表している。 (注) 東海3県の当該県域全体を対象としていない(OKB大垣共立銀行の支店所在地エリアが対象)。

資料配布場所：名古屋金融記者クラブ、大垣市政経済記者クラブ

【本件に関する問合せ先：OKB総研 調査部 中澤・梅木 TEL: 0584-74-2615 FAX:0584-74-2688】

# OKB景況指数（2022年9月期調査報告）

## 調査概要

- (1) 調査対象 東海3県にあるOKB大垣共立銀行の支店長（100支店）
- (2) 調査内容 調査時点の景気水準および3ヵ月後の景気方向
- (3) 調査方法 2022年8月上旬に調査票を配付し、8月下旬までに回収

## 調査結果

**景気的水準：** 景気は3期ぶりに上昇。企業活動が持ち直している一方、個人消費の回復は足踏み。企業収益は引き続き落ち込んでいる。愛知県と岐阜県で景気動向に差がみられる。

**景気方向：** 3ヵ月後の景気は悪化を見込む。原材料高や円安によるコスト増が企業収益を圧迫。物価上昇による節約志向の強まりから個人消費は弱含む見通し。

	景気的水準(2022年9月期)	景気方向(3ヵ月後見通し)
全地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景気全般は▲25.5（前回比+4.7）と3期ぶりに上昇。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・▲8.2と「悪化」超</li> </ul>
	<p>（支店長コメント）</p> <p>新型コロナ第7波やウクライナ危機の長期化、物価高、円安、半導体不足、エネルギー価格高騰など問題が多く、足元の景気は停滞傾向にある。物価高による増収は見られるが、コストがかさみ減益傾向にある。個人消費はコロナ慣れや夏季休暇により回復は見られるも、新型コロナ第7波や物価高のあおりを受けている。</p>	
県別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県▲29.5（前回比▲0.8）、岐阜県▲21.8（前回比+9.2）。岐阜県は上昇となった一方、愛知県はやや低下。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県は▲16.7と「悪化」超</li> <li>・岐阜県は▲2.3と「悪化」超</li> </ul>
	<p>（支店長コメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県では、自動車関連を中心に減産の影響が大きい。半導体不足は底入れ感があるが、依然として円滑な調達には程遠い。</li> <li>・岐阜県では、航空機業界は依然として低調。アパレル業界は外出自粛や上海ロックダウンの影響を引き続き受けており、円安によるコスト増もあって厳しさが続いている。プラスチック関連は樹脂や再生材の需要増により好調を維持している。</li> </ul>	
地域別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三河、名古屋など3地域で前回調査から低下した一方、西尾張、東濃・可茂など4地域で上昇。全ての地域がマイナス圏となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<b>良化</b>」超 三河</li> <li>・「<b>悪化</b>」超 名古屋、東尾張、西尾張、西濃</li> </ul>
	<p>（支店長コメント）</p> <p><b>【三河地域】</b> 自動車関連は生産台数の減少により低調に推移。当地区全般の景気に大きな影響を及ぼしている。ただし、減産も改善の兆しが見えており、年末にかけて回復していく事が想定される。</p> <p><b>【岐阜地域】</b> 工作機械関連は引き続き好調。自動車関連は生産工場停止や減産等の影響で受注が減少傾向。住宅建設業は資材価格の高騰等により住宅着工件数が停滞気味。</p>	
項目別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「全地域」を項目別に見ると、「個人消費」と「企業収益」を除く項目で上昇。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<b>増加</b>」超 「生産活動」、「設備投資」、「資金需要」</li> <li>・「<b>減少</b>」超 「個人消費」、「企業収益」</li> <li>・「<b>不足</b>」超 「雇用」</li> </ul>
	<p>（支店長コメント）</p> <p><b>「個人消費」：</b>まん延防止等重点措置などの行動制限がなく、観光地やレジャー施設への客足が増加している。一方、相次ぐ値上げや新型コロナ第7波により消費に対する慎重姿勢が強まっている。</p> <p><b>「生産活動」：</b>受注は堅調であるが、依然として原材料の調達の遅れや価格高騰の影響は大きく、生産活動を圧迫。</p> <p><b>「設備投資」：</b>業務の効率化や合理化のためのシステム投資が進んでいる。自家消費型の太陽光発電など、カーボンニュートラルや電気料金の高騰に対応した設備投資も旺盛。</p> <p><b>「企業収益」：</b>原材料高騰の影響を価格転嫁できている企業とできていない企業がはっきり分かれている。全体としては売上減少と収益性の低下から企業収益は低調。</p> <p><b>「雇用」：</b>人手不足が恒常化しているものの、外国人技能実習生の受け入れ再開により若干緩和されている。</p>	

\*（支店長コメント）は、該当エリア・項目の調査結果（水準・方向）と関連したコメントを掲載しています。

### ■指数および算出方法について

①「景気の水準」・・・調査時点における地域の景気の「水準」を示す指数。

②「景気の方角」・・・景気の「水準」に対して、景気の「方向」を示す指数。

各指数は、最高点が100、最低点が▲100となる。①「景気の水準」を表す「景気全般」の場合、右記の表の通り、各項目の回答にポイントを付与。支店の規模によるウエイト調整を行った上で、地域毎のポイント合計を当該地域の全支店長が「良い」と回答した場合のポイント合計で割り、100を乗じて算出する。

### 地域の景気水準を表す「景気全般」の場合

現在の景気に対して	付与ポイント
良い	2ポイント
どちらかといえば良い	1ポイント
良くも悪くもない	0ポイント
どちらかといえば悪い	▲1ポイント
悪い	▲2ポイント

図表1 OKB景況指数「景気の水準」(2022年9月期)

地域名	景気全般	個人消費	生産活動	設備投資	企業収益	資金需要	雇用
	今期水準(前回比)	今期水準(前回比)	今期水準(前回比)	今期水準(前回比)	今期水準(前回比)	今期水準(前回比)	今期水準(前回比)
名古屋	▲32.5 (▲5.0) ↓	▲10.0 (▲2.5) ↓	▲15.0 (+10.0) ↑	▲12.5 (+2.5) ↑	▲27.5 (+2.5) ↑	7.5 (+30.0) ↑	42.5 (+10.0) ↑
東尾張	▲20.5 (▲4.5) ↓	4.5 (▲11.4) ↓	▲20.5 (▲13.6) ↓	11.4 (+15.9) ↑	▲34.1 (▲9.1) ↓	2.3 (+6.8) ↑	43.2 (▲13.6) ↓
西尾張	▲32.1 (+17.9) ↑	▲21.4 (▲3.6) ↓	▲14.3 (+14.3) ↑	0.0 (+14.3) ↑	▲39.3 (▲3.6) ↓	▲25.0 (0.0) ⇐	46.4 (+21.4) ↑
三河	▲40.0 (▲10.0) ↓	▲20.0 (▲10.0) ↓	▲30.0 (▲10.0) ↓	▲30.0 (0.0) ⇐	▲40.0 (▲10.0) ↓	▲10.0 (0.0) ⇐	30.0 (▲20.0) ↓
岐阜	▲22.2 (+5.6) ↑	▲13.9 (+5.6) ↑	0.0 (+16.7) ↑	▲15.3 (▲5.6) ↓	▲30.6 (▲8.3) ↓	▲12.5 (+11.1) ↑	54.2 (+2.8) ↑
西濃	▲18.5 (+11.1) ↑	▲25.9 (▲1.9) ↓	▲13.0 (▲3.7) ↓	0.0 (+7.4) ↑	▲27.8 (▲14.8) ↓	▲7.4 (+25.9) ↑	59.3 (▲5.6) ↓
東濃・可茂	▲27.8 (+16.7) ↑	▲22.2 (0.0) ⇐	▲5.6 (+16.7) ↑	0.0 (+22.2) ↑	▲5.6 (+22.2) ↑	▲33.3 (+5.6) ↑	55.6 (0.0) ⇐
飛騨・郡上	▲16.7 (0.0) ⇐	▲33.3 (0.0) ⇐	▲16.7 (+16.7) ↑	▲33.3 (0.0) ⇐	0.0 (+16.7) ↑	▲66.7 (▲33.3) ↓	83.3 (+33.3) ↑
桑名・四日市	▲33.3 (0.0) ⇐	0.0 (▲16.7) ↓	▲33.3 (▲16.7) ↓	▲16.7 (▲16.7) ↓	▲50.0 (0.0) ⇐	16.7 (+16.7) ↑	16.7 (+16.7) ↑
愛知県(4地域)	▲29.5 (▲0.8) ↓	▲9.1 (▲6.8) ↓	▲18.9 (0.0) ⇐	▲4.5 (+9.1) ↑	▲34.1 (▲4.5) ↓	▲3.8 (+11.4) ↑	41.7 (0.0) ⇐
岐阜県(4地域)	▲21.8 (+9.2) ↑	▲20.7 (+1.7) ↑	▲6.3 (+10.3) ↑	▲8.6 (+4.6) ↑	▲22.4 (▲2.3) ↓	▲19.0 (+11.5) ↑	58.0 (+1.7) ↑
三重(1地域)	▲33.3 (0.0) ⇐	0.0 (▲16.7) ↓	▲33.3 (▲16.7) ↓	▲16.7 (▲16.7) ↓	▲50.0 (0.0) ⇐	16.7 (+16.7) ↑	16.7 (+16.7) ↑
全地域	▲25.5 (+4.7) ↑	▲15.1 (▲2.5) ↓	▲12.6 (+5.0) ↑	▲7.2 (+5.7) ↑	▲28.3 (▲3.1) ↓	▲11.3 (+11.6) ↑	49.7 (+1.6) ↑

(\*) 1) 各項目の「今期水準」は5つの選択肢にそれぞれポイントを付与したうえで算出。

例えば「景気全般」は、「良い」に2ポイント、「どちらかといえば良い」に1ポイント、「良くも悪くもない」に0ポイント、「どちらかといえば悪い」に▲1ポイント、「悪い」に▲2ポイント付与。

各回答に付与したポイント合計を、全回答が「良い」とした場合のポイント合計で除して算出。同じ市町に複数の店舗がある場合には、当該市町の中心的な店舗以外の店舗について、ポイントを通常の2分の1として算出。

(\*) 2) ()内の前回比は、前回調査時の各指数からの変化幅を表記。

(\*) 3) 雇用は「不足-過剰」で算出。プラスは「不足超」、マイナスは「過剰超」を示す。

図表2 OKB景況指数「景気の方角(3ヵ月後見通し)」(2022年12月期見通し)

(単位: %ポイント)

地域名	景気全般	個人消費	生産活動	設備投資	企業収益	資金需要	雇用
	「良化」-「悪化」	「増加」-「減少」	「増加」-「減少」	「増加」-「減少」	「増加」-「減少」	「増加」-「減少」	「不足」-「過剰」
名古屋	▲15.0 ↓	▲5.0 ↓	▲5.0 ↓	5.0 ↑	▲25.0 ↓	10.0 ↑	15.0 ↑
東尾張	▲13.6 ↓	▲22.7 ↓	13.6 ↑	4.5 ↑	▲40.9 ↓	45.5 ↑	40.9 ↑
西尾張	▲50.0 ↓	▲42.9 ↓	0.0 ⇐	▲7.1 ↓	▲28.6 ↓	▲7.1 ↓	14.3 ↑
三河	20.0 ↑	▲20.0 ↓	80.0 ↑	40.0 ↑	20.0 ↑	40.0 ↑	20.0 ↑
岐阜	0.0 ⇐	▲16.7 ↓	0.0 ⇐	▲2.8 ↓	▲33.3 ↓	8.3 ↑	8.3 ↑
西濃	▲7.4 ↓	7.4 ↑	14.8 ↑	22.2 ↑	▲25.9 ↓	18.5 ↑	7.4 ↑
東濃・可茂	0.0 ⇐	0.0 ⇐	0.0 ⇐	0.0 ⇐	0.0 ⇐	▲11.1 ↓	11.1 ↑
飛騨・郡上	0.0 ⇐	33.3 ↑	▲66.7 ↓	0.0 ⇐	▲66.7 ↓	33.3 ↑	0.0 ⇐
桑名・四日市	0.0 ⇐	0.0 ⇐	0.0 ⇐	0.0 ⇐	0.0 ⇐	0.0 ⇐	0.0 ⇐
愛知県(4地域)	▲16.7 ↓	▲21.2 ↓	15.2 ↑	7.6 ↑	▲24.2 ↓	22.7 ↑	24.2 ↑
岐阜県(4地域)	▲2.3 ↓	▲2.3 ↓	0.0 ⇐	5.7 ↑	▲26.4 ↓	9.2 ↑	8.0 ↑
三重(1地域)	0.0 ⇐	0.0 ⇐	0.0 ⇐	0.0 ⇐	0.0 ⇐	0.0 ⇐	0.0 ⇐
全地域	▲8.2 ↓	▲10.1 ↓	6.3 ↑	6.3 ↑	▲24.5 ↓	14.5 ↑	14.5 ↑

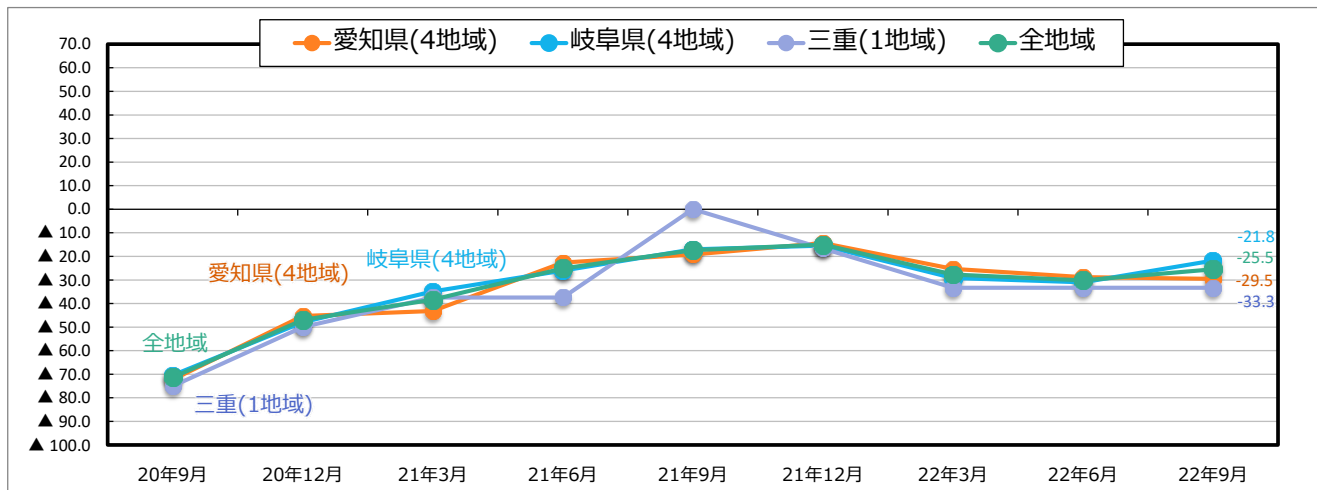
(\*) 景気全般は、3ヵ月後には景気が今より「良くなりそう」と回答した割合(%) - 「悪くなりそう」と回答した割合(%)

他の6項目は、3ヵ月後には今より「増えそう(不足しそう)」と回答した割合(%) - 「減りそう(過剰となりそう)」と回答した割合(%)

「景気の水準」同様、同じ市町に複数の店舗がある場合には、当該市町の中心的な店舗以外の店舗について、ポイントを通常の2分の1として算出。

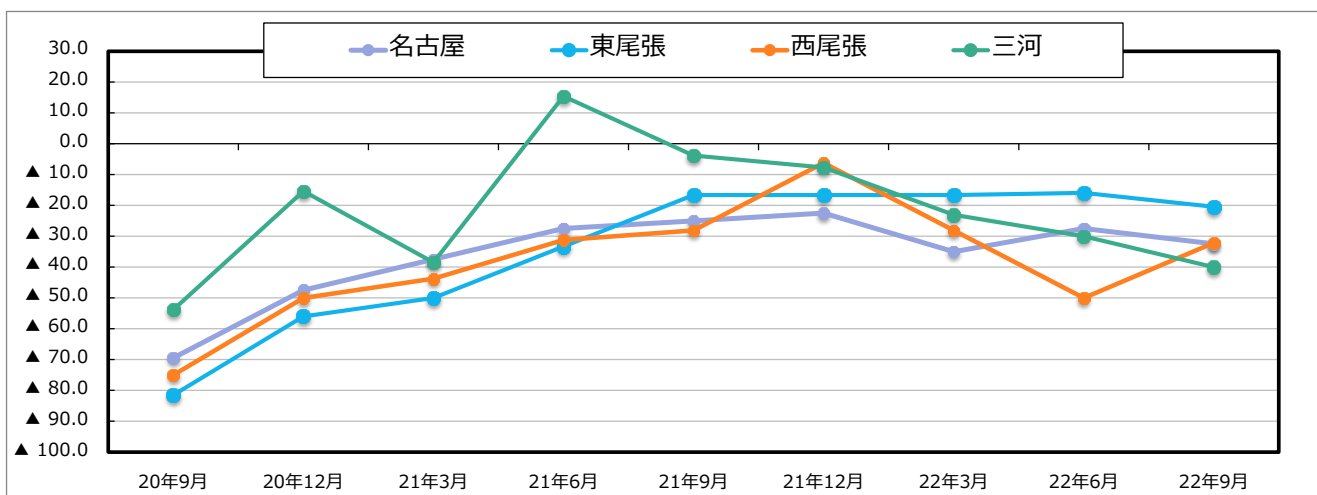
# 「景気の水準」の推移

## ■ 県別

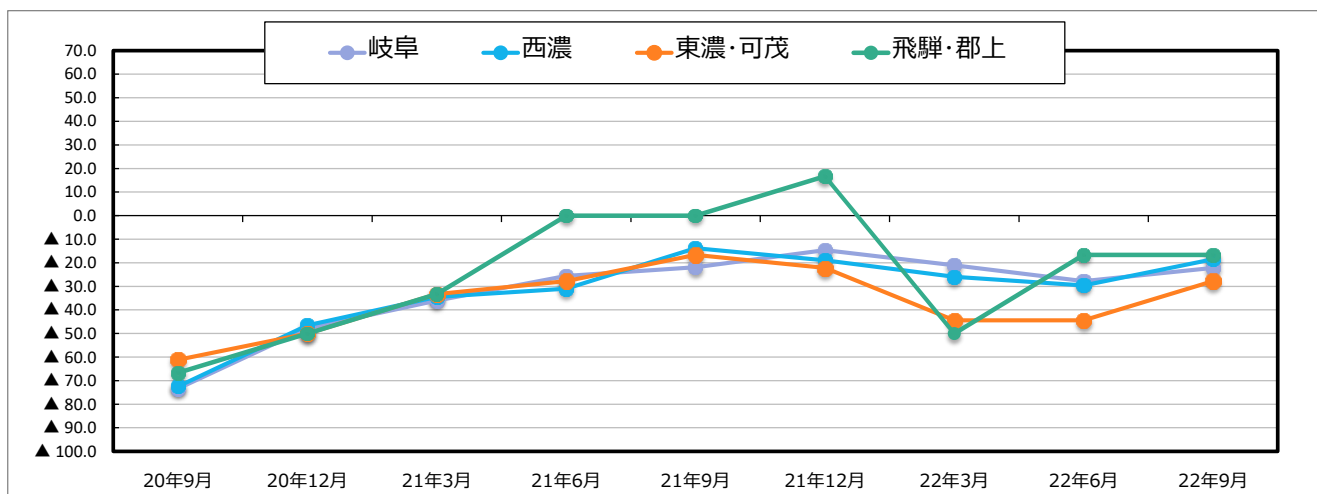


## ■ 地域別

### ① 愛知県内



### ② 岐阜県内



## 追加調査 1

# 「新型コロナウイルスによる地域経済への影響」

2020年6月期調査より、景況調査の各項目への「新型コロナ感染症による影響」について尋ねている。地域の景況感に対する新型コロナウイルスの影響について見ていきたい。

### 影響度の指数化について

※指数はOKB景況指数の算出同様、各項目の回答に表のポイントを付与、支店の規模によるウェイト調整を行ったうえで算出している。全支店長が「極めて大きい」と回答した場合は最高点の100、全支店長が「影響はない」と回答した場合は最低点の0となる。

調査項目への新型コロナの影響の大きさ	付与ポイント
影響はない	0ポイント
ややある	25ポイント
かなりある	50ポイント
非常に大きい	75ポイント
極めて大きい	100ポイント

### (1) 新型コロナによる地域経済への影響は、「ややある」が59.7%と最も多かった。

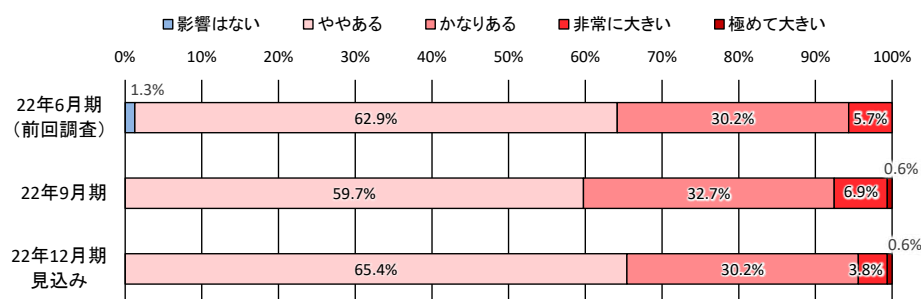
前回調査(2022年6月期)から新型コロナの影響度は上昇。県別では愛知県で上昇、岐阜県ではほぼ横ばい。

地域経済への「新型コロナによる影響」について尋ねたところ、「極めて大きい」が0.6%、「非常に大きい」が6.9%、「かなりある」が32.7%、「ややある」が59.7%、「影響はない」が0.0%だった。前回(2022年6月期)調査から、「極めて大きい」、「非常に大きい」、「かなりある」が上昇、「ややある」、「影響はない」が低下した。

全地域への影響度(回答を指数化)は37.1と、前回から2.0ポイント上昇した。第7波による感染拡大により、第6波の影響を受けた22年3月期同様、影響度は再度上昇した。県別に影響度を見ると、愛知が41.3と、3.8ポイント上昇、一方で岐阜県は33.6で0.3ポイント上昇にとどまっており、景況感同様、第7波による両県への影響にも差がみられる。新型コロナによる景況感の下押しの影響は、岐阜県よりも愛知県で強く表れている。

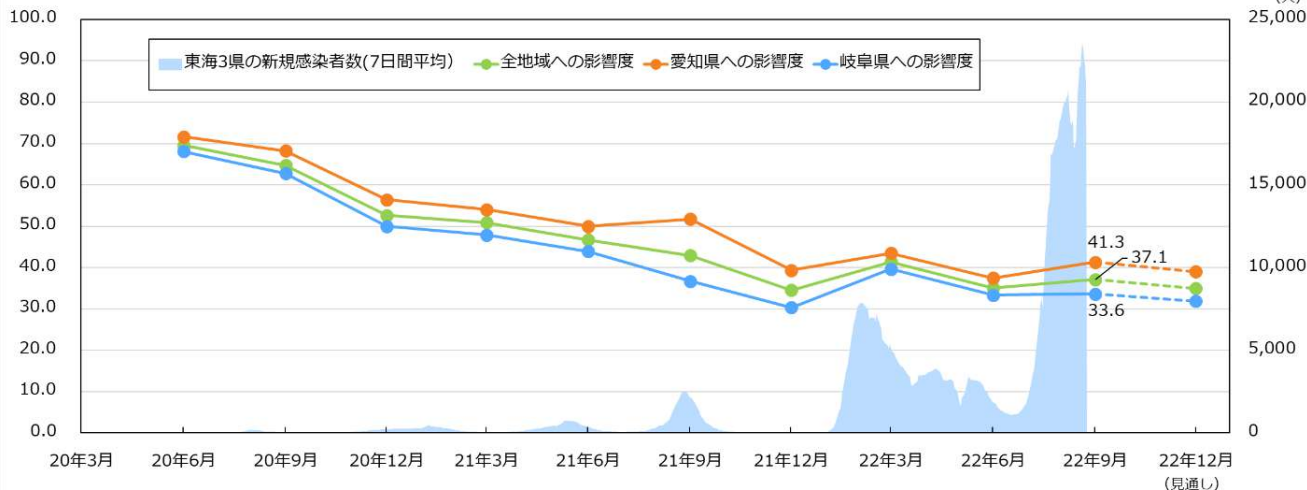
3ヵ月後の見通しについて、愛知県・岐阜県とも地域経済への「新型コロナによる影響」はやや低下する見込み。

#### ・新型コロナによる地域経済への影響について



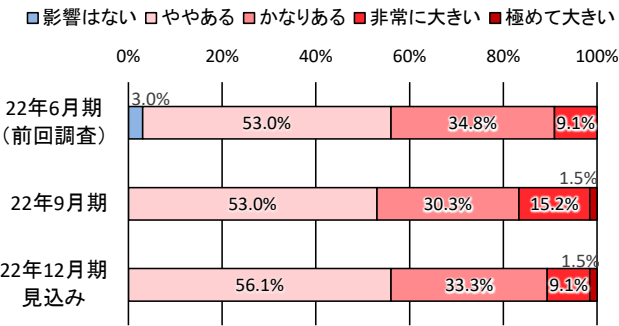
#### ・新型コロナによる影響度の推移

新型コロナによる地域経済への影響度・東海3県の新規感染者数(※)

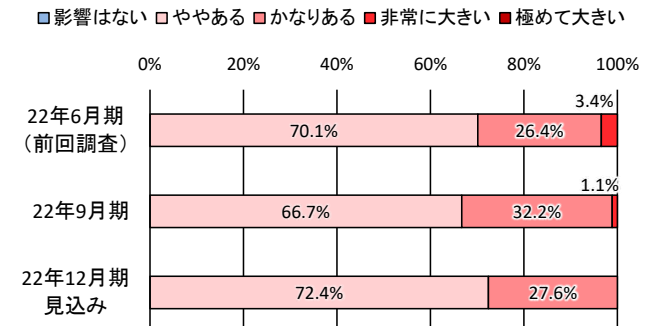


(※) 東海3県の新規感染者数は7日間移動平均(中央)。厚生労働省のデータよりOKB総研にて作成。

・新型コロナの影響について（愛知県）



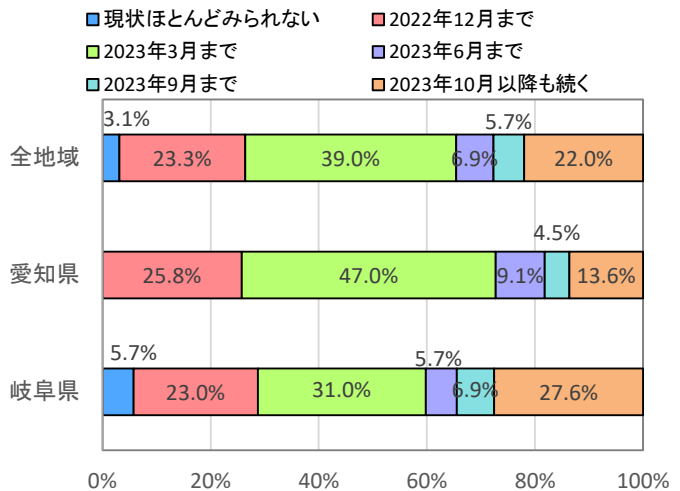
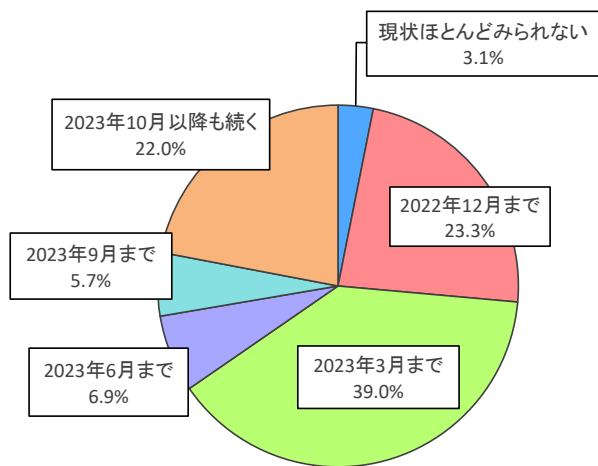
・新型コロナの影響について（岐阜県）



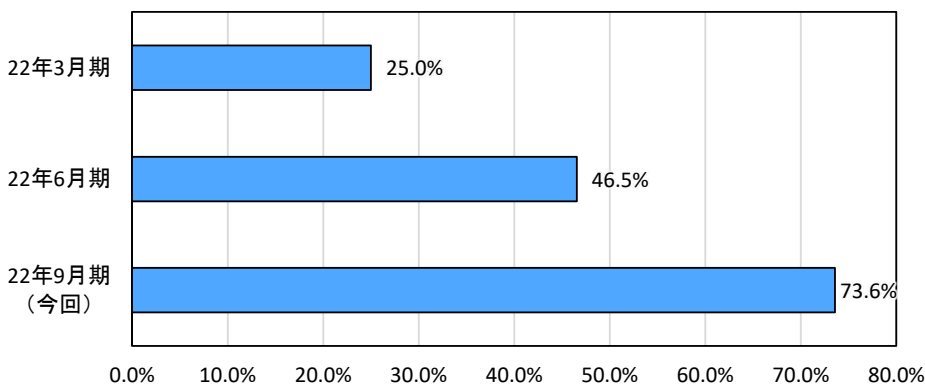
**（２）地域経済への新型コロナの影響は、「2023年3月まで」が39.0%と最も多い。2023年以降も影響が続くとする回答は73.6%だった。**

新型コロナによる地域の経済問題はどの程度続くと考えているかを尋ねたところ、「2023年3月まで」が39.0%と最も多かった。『2023年以降も続く』との回答は合わせて73.6%を占めており、回答割合の推移をみると、前回までと比較し、影響が長引く方向に大きくシフトしている。第7波により影響度が再度上昇したことで、地域経済への影響はまだまだ続く想定しているようだ。

・新型コロナによる地域の経済問題はどの程度続くと考えているか



・影響が「2023年以降も続く」回答割合の推移





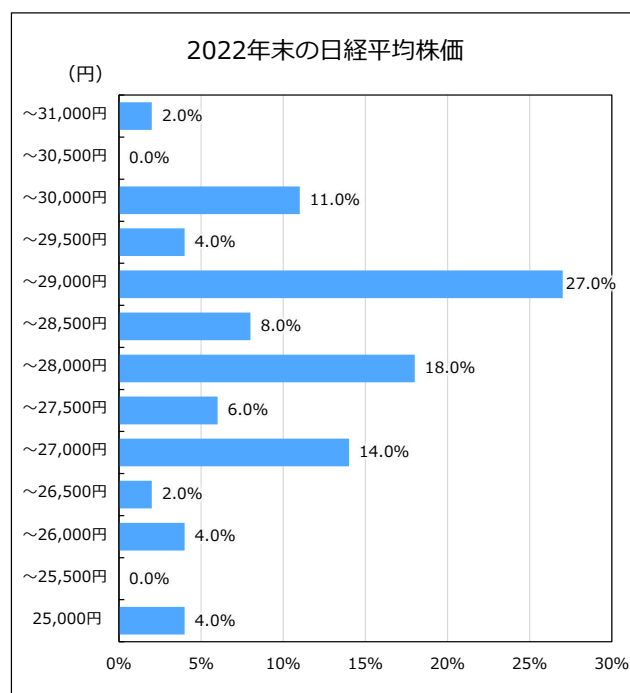
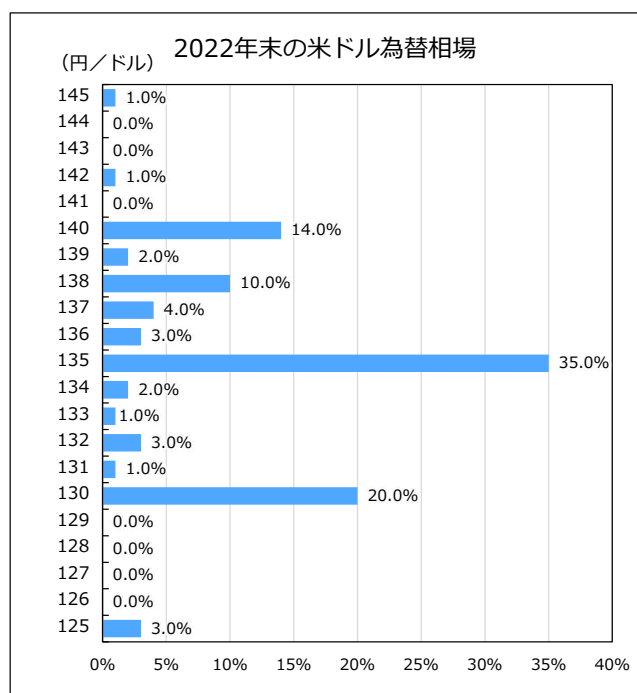
## 追加調査 2

# 「2022 年末の米ドル為替相場・日経平均株価」

2022 年末の相場予想の平均は、米ドル為替相場は 1 ドル = 134.9 円、日経平均株価は 28,234 円。  
日経平均株価の予想は、愛知県の平均が 27,988 円と、岐阜県の 28,459 円に比べやや弱気。

2022 年末の為替・株式の予想を尋ねたところ、米ドル為替相場の予想平均は 1 ドル = 134.9 円、日経平均株価の予想平均は 28,234 円だった。予想は調査実施時の水準近辺での回答が多かった。

都道府県別に見ると、米ドル為替相場の予想平均は、愛知県 134.98 円、岐阜県が 134.80 円と大きな差は見られなかった。日経平均株価の予想平均は、愛知県が 27,988 円、岐阜県が 28,459 円と、愛知県では岐阜県に比べ、やや弱気な予想となった。景況指数、3 か月後の見通し、コロナの影響度においても、愛知県は岐阜県に比べ弱含む結果となっているが、年末相場の予想においても同様の結果となった。



2022年末の米ドル為替相場口 (円/ドル)

	全体	愛知県	岐阜県
平均値	134.89	134.98	134.80
最大値	145.00	142.00	145.00
最小値	125.00	125.00	125.00
最頻値	135.00	135.00	135.00
中央値	135.00	135.00	135.00

(ご参考)

2022年8月相場 (円/ドル)	
月中高値	139.06
月中安値	130.39
月末時点	138.96

出所：Refinitiv

2022年末の日経平均株価口 (円)

	全体	愛知県	岐阜県
平均値	28,234	27,988	28,459
最大値	31,000	30,000	31,000
最小値	25,000	25,000	25,000
最頻値	29,000	29,000	29,000
中央値	28,400	28,000	28,500

(ご参考)

2022年8月相場 (円)	
月中高値	29,222.77
月中安値	27,530.60
月末時点	28,091.53

出所：Refinitiv

### ・予想コメント

<b>変動要因</b>
・日米の金融政策、米国利上げペース
・米国景気
・米国インフレ動向
<b>円安予想 (一部抜粋)</b>
・日米金利差拡大に伴い、当面円安基調が続く
<b>現状程度 (一部抜粋)</b>
・日米の金利差拡大はすでに織り込み済み
<b>円高予想 (一部抜粋)</b>
・米金利上昇ペースの一服
・米国の景気後退

### ・予想コメント

<b>上昇要因 (一部抜粋)</b>
・円安の恩恵を受けた輸出企業が相場をけん引。
・割安感のある日本株に海外からの買いが入る。
・米国での利上げは当面継続、円安基調も当面続く。
・新型コロナウイルスによる影響の剥落。
<b>下落要因 (一部抜粋)</b>
・ロシア・ウクライナの問題による経済制裁の影響。
・世界的な金融引き締めによる経済成長の鈍化。
・更なる物価上昇による消費低迷、企業収益の悪化。
・米国をはじめとする世界的な景気後退懸念。
・エネルギー高による企業収益の悪化。

以上